

# CASBEE<sup>®</sup> 京都-新築

## 標準システム

■使用評価マニュアル：CASBEE-京都-建築(新築)2018年版 | 使用評価ソフト：CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)京都御池通ホテル計画	階数	地上9F
建設地	京都市中京区御池通室町西入高橋町179-1, 179-2, 180番	構造	S造
用途地域	商業地域, 防火地域	平均居住人員	210 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	ホテル,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年3月 予定	評価の実施日	2018年12月7日
敷地面積	456.11 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社奥村組西日本支社
建築面積	374.05 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	3,276.27 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算  
 ①参照値 100%  
 ②建築物の取組み 84%  
 ③上記②以外の 84%  
 ④上記+ 84%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 3.4

<h4>Q1 室内環境</h4> <p>Q1のスコア = 3.0</p>	<h4>Q2 サービス性能</h4> <p>Q2のスコア = 3.2</p>	<h4>Q3 室外環境(敷地内)</h4> <p>Q3のスコア = 4.3</p>
<h4>LR 環境負荷低減性</h4> <p>LRのスコア = 3.4</p>		
<h4>LR1 エネルギー</h4> <p>LR1のスコア = 3.2</p>	<h4>LR2 資源・マテリアル</h4> <p>LR2のスコア = 3.8</p>	<h4>LR3 敷地外環境</h4> <p>LR3のスコア = 3.2</p>

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> ホテルという客室内の電力消費の利用制限が難しい用途ではあるが、環境に配慮した建物を目指す為、建物共用部に於ける限りの対策をとることを目標とする。具体的には、空調負荷を軽減する為、屋上は外断熱(一部屋上緑化)とし、客室窓はLow-Eペアガラスを採用した計画とする。照明についても、適切な照度計画のもと全て高効率器具(LED)とし、共用のトイレや喫煙室、ベンダーは人感センサーを採用する。また、太陽光パネルを設置し、自然環境エネルギーの積極活用も取り入れた計画とする。	<b>その他</b>	
<b>Q1 室内環境</b> 屋光率を高めに設定するなど光・視環境に配慮している。F☆☆☆☆建材を全面的に採用し、空気取り入れ口は汚染源のない方位かつ、各種排気口から異なる方位で6m以上離すなど、空気質環境にも十分配慮する。	<b>Q2 サービス性能</b> 各客室でGbitクラスのブロードバンドが利用可能な環境を整備し、天井高さを高くするなど、快適性・心理性に配慮する。補修必要間隔の配管材を採用し、可能な限り配管系統を区分するなど建物の耐用性・信頼性に配慮する。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 外構や建物上の広範囲を緑化することで緑の量を確保し、自生種の採用や植栽条件に応じた適切な緑地づくりで緑の質を確保することで、生物環境の保全と創出に配慮する。中高木の植栽で敷地内温熱環境の向上に努める。
<b>LR1 エネルギー</b> Low-E複層ガラスの採用や断熱材を強化し建物の熱負荷を抑制する。高効率空調機、LED照明、高効率給湯器を採用することで設備システムの高効率化に配慮する。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 節水コマや自動水栓、省水型機器を用い水資源を保護する。また、内装を乾式工法とし、OAフロアを採用するなど部材の再利用可能性向上への取り組みを行う。ノンフロン断熱材を採用し汚染物質含有材料の使用を回避する。	<b>LR3 敷地外環境</b> ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出率を84%とし、地球温暖化へ配慮する。HP上で公共交通機関利用の案内や公共交通マップ・バス乗車案内及び「京歩きマップ」の配布を行い、交通負荷の抑制に配慮する。「光害対策ガイドライン」や「広告物照明の扱い」を確認し、周辺環境へ配慮する。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される